第４学年　国語科学習指導案

児　童　　４年１組　男１７名　女１６名

指導者　　舘脇　玲

単元名

ごんと兵十の関わりをとらえて，感想を伝え合おう。

学習材名「ごんぎつね」（東京書籍４年下）Ｐ９～Ｐ３０

＜主となる指導事項＞

◎場面の移り変わりに注意しながら，登場人物の性格や気持ちの変化，情景などについて，叙述を基に想像して読むこと。　（C 読むこと(1)ウ）

○文章を読んで考えたことを発表し合い，一人一人の感じ方について違いのあることに気づくこと。（C 読むこと(1)オ）

＜付けたい力＞

○中心となる人物とほかの人物との関わりについて考えながら読む。

＜単元の言語活動＞

◎ごんと兵十がどのように関わっているかを考えて読み，感想を伝え合う。

１　単元について

（１）子どもの実態

子どもたちは，「読むこと」領域の文学的文章を読む学習において，「サーカスのライオン」（東京書籍３年下）で物語全体を通して，気持ちやその変化が最も詳しく書かれている人物を中心となる人物ということや，物語を読み味わう際には，中心となる人物の気持ちを想像しながら読む学習をしてきている。また，「走れ」（東京書籍４年上）では，中心となる人物の気持ちの変化について，どこでどのように変化したのか，どうしてその変化が起きたのかを考えて読むということも学んできている。しかし，中心となる人物の気持ちの変化を読み取ることはできるようになってきているが，ほかの人物の気持ちや，ほかの人物との関わりを通して中心となる人物の気持ちが変化していくことを読み取る力はまだ身に付いていない。また，気持ちの変容を読み取るには，行動や会話文，心内語などに注目することを理解しているものの，まだ叙述をもとに捉えることが定着していない。さらに，人物の気持ちが直接的に書かれていないところから気持ちを考えることもまだ難しい。昨年度実施した標準学力調査においても「読む能力」は全国正答率を下回っており，文章の読み取りの力が低いことが分かった。５月末に実施した国語科に関する意識調査の結果を見ると，「教科書に出てくる物語や説明文と関係のある本を読むこと（読書）」を苦手としている子どもが多く，並行読書を充実させていく必要性を感じた。

以上のことから，本単元では，「ごんと兵十がどのように関わっているかを考えて読み，感想を伝え

合う。」という言語活動を位置付け，中心となる人物とほかの人物との関わりについて考えながら読む力をつけることをねらいとした。

（２）学習材について

本学習材「ごんぎつね」は，中心となる人物であるごんと兵十との関係の変容を描いた物語である。人物の気持ちが会話文や心内語として直接表されていることも多いが，その場の状況や人物の行動からも気持ちを想像することができる。また，物語の中で詳細には書かれていない部分や，場面と場面の間の人物の気持ちを想像させることによって，より深い読解が期待できる。小ぎつねのごんに児童が共感しやすく，場面ごとの人物の気持ちがつかみやすい。中心となる人物の言動と情景描写によって，児童でも物語世界や心情をつかみやすい学習材である。また，物語の結末について，多様な感想を引き出すことができる学習材であるといえる。

（３）言語活動の特徴と指導事項との関連

本単元では，「ごんと兵十がどのように関わっているかを考えて読み，感想を伝え合う」を単元の言語活動として設定する。感想を伝え合うためには，兵十に対するごんの気持ちの変化と，ごんに対する兵十の気持ちを読み取る力が必要となる。第三次では，最後の場面のごんと兵十の気持ちを想像し，感想を話し合わせる。人物の言動とその変化に着目しながら変化の意味を読み深めることを通して，初発の感想と最後の感想では大きく違ってくるため，それぞれの感想の変化にも気づかせたい。さまざまな感情を訴えかけてくる学習材であるため，第二次と第三次をあまり切り離さずに，作品の余韻に浸らせていく。物語の結末は，多様な感想を引き出すことができる描写となっており，自分と友達との感じ方の違いに気付かせたい。

（４）指導に当たって

第一次では，「ごんと兵十がどのように関わっているかを考えて読み，感想を伝え合う」という学習課題とゴールを確かめ，目的意識をもって主体的に学習を進められるようにしたい。物語の中心となる人物とそれに関わる人物を確認し，初発の感想を交流させたい。ごんがひとりぼっちである理由など，きつねの習性なども踏まえて人物を理解させ，小ぎつねであるごんに共感できる環境をつくっていく。全体読みを通して「ごんマップ」をつくり，物語を読むにあたって必要なごんと兵十の距離感や，読み取りに関わる背景をつかませたい。

第二次では，場面ごとに起きた出来事を確かめ，それぞれの場面のごんと兵十の気持ちを考える。まず，作品が六つの章，八つの場面から構成されていることを確認し，場面ごとに読み取っていくことを確かめる。次に，行動や会話文を手掛かりに，場面ごとにごんと兵十の気持ちを考えさせていく。情景からも人物の気持ちが読み取れることに気付かせ，それぞれの場面に出てくる色や音，天気，生き物などに着目させていきたい。また，ごんと兵十の気持ちを心情曲線やグラフなどに表し，視覚的に二人の気持ちの変化や違い，距離感などをつかませていく。毎時間ごとに感想やごんと兵十の距離感を書きため，前時や初発の感想との比較がいつでもできるようにする。単元を通しての一人ひとりの感想や，場面ごとの感想の伝え合いも大事にしていきたい。

第三次では，最後の場面のごんと兵十の気持ちを想像し，物語を通しての感想を伝え合う。作品を

読み終わったあとに残る余韻を大事にしたいため，第二次とはあまり切り離さずに第三次へつなげていきたい。各場面ごとに書き溜めた感想と最後の感想をまとめたものを一つの成果物として「ごん絵巻」を作成し，それを手掛かりに感想の交流を行う。友達との感想の比較だけでなく，初発の感想と最後の感想を比較させ，自分の感想も読み取ることで大きく変化していることに気付かせていく。友達との感想交流を通し，結末から感じることのそれぞれの違いに気付かせていきたい。

単元を通して，新見南吉の作品を教室内に用意し，並行読書に取り組ませる。朝学習などを利用しながら，新見南吉の世界観にどっぷりと浸かっていけるようにしたい。

２　単元の指導目標と評価規準

○物語を読むことに興味をもち，中心となる人物の気持ちの変化を考えようとしている。
【関心・意欲・態度】

◎登場人物同士の関わりをとらえ，それぞれの気持ちの変化や情景などを想像して読むことができる。
【読むこと（１）ウ】

○物語を読んで感じたことや思ったことを発表し合い，一人一人の感じ方に違いがあることに気づくことができる。【読むこと（１）オ】

［評価規準］

国語への関心・意欲・態度	読む能力
○物語を読むことに興味をもち，中心となる人物の気持ちの変化を考えようとしている。	◎本文中の行動や会話，心内語，情景をもとに，登場人物同士の関わりをとらえ，それぞれの気持ちの変化を想像して読んでいる。【読むこと（１）ウ】 ○物語の結末から感じたことや全体の感想を伝え合い，一人一人の感じ方に違いがあることに気付いている。【読むこと（１）オ】

３　単元の指導計画（全１３時間）

次	時	主な学習活動	指導の手立て	評価とその方法	
一	１ ・ ２ ・ ３	○中心となる人物とそれに関わる人物を確認し，初発の感想を交流する。 ○つけたい力と単元のゴールを確認し，学習の計画をたてる。 ○「ごんマップ」をつくり，全体読みをする。	・中心となる人物とそれに関わる人物を確認し，感想を交流させる。 ・単元の最後には物語の感想を伝え合うことを確認する。 ・人物設定や時代背景，ごんと兵十の距離感をつかませる。	関物語を読むことに興味をもち，中心となる人物の気持ちの変化を考えようとしている。 （行動観察・発言・ノート）	並行読書
二	４	○場面を確かめる。 ○第一場面を読み，物語全体	・六章で構成されていることを確かめ，時を表す言葉や出来事を手掛かりに，八つの場面に分けさせる。 ・物語の時・場所・人物がわかる	読叙述をもとにごんの境遇や行動を読み取っている。 （ノート・発言）	

		の設定と中心となる人物の設定を読み取る。	部分に着目させる。 ・いたずらされた百姓たちの思いも考えさせる。		並行読書
	5	○第二場面から，いたずらをしたごんの気持ちとごんに対する兵十の気持ちを読み取る。	・場面の様子を想像させながら出来事の大体を理解させる。 ・ごんと兵十の，同じ行動に対する認識の違いに気づかせる。 ・兵十に対するごんの気持ちについて，意見交流をさせる。	読ごんの様子や行動をとらえ，いたずらをしたごんの気持ちやそれに対する兵十の気持ちを読み取っている。 （ノート・発言）	
	6	○第三場面から，いたずらをしたことを後悔しているごんの気持ちを読み取る。	・ごんが見た兵十の様子や，辺りりの情景にも着目させる。 ・軽い気持ちでやった自分のいたずらと兵十のおっかあの死を結び付けて考え，後悔しているごんの気持ちをとらえさせる。	読ごんの行動や心内語に着目し，いたずらをしたことを後悔しているごんの気持ちを読み取っている。 （ノート・発言）	
	7	○第四・五場面から，償いを繰り返すごんの行動と，兵十への気持ちの変化を読み取る。	・いたずらの後悔から兵十への同情，償いへとごんの気持ちが変化していることを理解させる。	読償いを繰り返すごんの行動に着目し，兵十への気持ちの変化を読み取っている。 （ノート・発言）	
	8	○第六・七場面から，兵十と加助の後をつけるごんの気持ちを読み取る。	・ごんの兵十への関心の高さに気づかせる。 ・ごんの期待と不満を理解させる。	読兵十と加助の後をつけるごんの行動に着目し，ごんの期待と不満を読み取っている。 （ノート・発言）	
	9 本時	○ごんに問いかけた兵十の気持ちとうなずいたごんの気持ちを読み取る。	・兵十がごんの償いに気づいたときの気持ちを捉えさせる。 ・撃たれた後，兵十の言葉にうなずいたごんの気持ちを想像し，ごんになったつもりで発表させる。	読ごんに問いかけた兵十の気持ちと，うなずいたごんの気持ちを想像しながら読んでいる。 （ノート・発言）	
	10	○兵十とのかかわりを通して，ごんの気持ちがどのように変化したかを読み取る。	・ごんの期待と不満の変化を振り返らせる。 ・ごんは，兵十にどうしてほしかったのだと思うか考えて発表させる。	読ごんと兵十との関わりを確かめ，ごんの気落ちの変化を読み取っている。 （ノート・発言）	

三	11	○読み取ったことを基に、自分の最後の感想をまとめる。	・これまでのごんの気持ちを踏まえて，自分の考えを書かせる。 ・初発の感想がどう変わったかを自分で比較させる。	読人物の気持ちを想像しながら読んでいる。 （ノート）	並行読書
	12・13	○書いた文章を紹介し合い，感想を深める。	・自分の感想と似ているところ，違うところに着目させて交流させる。 ・児童の参考になる感想を取り上げ，全体で共有させる。	読物語を読んで感じたことや思ったことを発表し合い，一人一人の感じ方の違いに気付いている。 （行動観察・発言）	

４　本時の指導　（９／１３）

（１）ねらい

ごんに問いかけた兵十の気持ちと，うなずいたごんの気持ちを，叙述を基に想像して読むことができる。

（２）展開

	学習活動・学習内容	指導の手立てと評価
導入	１　本時の学習課題を確認する。 ・単元のゴールと前時までの学習を振り返る。 最後の場面の，ごんと兵十のおたがいへの気持ちを読み取ろう。	○前時までのごんの気持ちの変化を心情曲線やグラフなどで確認し，ごんの気持ちの読み取りへの課題意識をもたせる。
５分	２　課題解決の見通しをもつ。 ・学習の流れを確認する。	○今日のゴールを提示し，そのために必要な学習活動を確認させる。

展開 35分	3　学習課題を解決する。 ・ごんの気持ちが分かる部分と兵十の気持ちが分かる部分を色分けしてサイドラインを引く。 ・「その明くる日も,」出かけていったごんの気持ちを考える。 ・「ごん，お前だったのか」と言ったときの兵十の気持ちを考え，交流する。 ・撃たれた後，兵十の言葉にうなずいたときのごんの気持ちを考え，話し合う。 お互いの気持ちを読み取る。 ご兵十，うなぎをとってごめんね。 分かってくれてありがとう。 兵気づかずに撃ってしまってごめん。 いろいろくれていたのに，気づかずに撃ってしまった…。 ・「青いけむり」が何を表しているかについて考え，交流する。 ごんの命／悲しみ／せつない／はかない	○視点の変化を想起させ,線を引くときに注意させる。 ○「引き合わない」と思ったことにも触れ，それにも関わらず兵十のうちへ行くことの意味を考えさせる。 ○兵十は,ごんの償いに気づいていなかったことを押さえ，兵十の気持ちが大きく変化したこと,ごんに対する呼びかけも変化したことに気づかせる。 ○ごんになったつもりで何と言いたいかを考えさせる。 ＜評価規準＞ A　表現上の工夫に着目しながら，中心となる人物とそれに関わる人物の気持ちを読み取っている。 B　叙述を基に，中心となる人物とそれに関わる人物の気持ちを読み取っている。 Bに到達させるための手立て 気持ちカードを示し，ごんの気持ちとしてそのカードを選択した理由を考えさせる。
まとめ 5分	4　学習をふり返る。 ・ふり返りをする。 ＜ふり返りの観点＞ ◎ごんについて感じたこと ◎ごんと兵十の関わりについて感じたこと ◎こんなごんのことをどう思うか 5　次時の学習内容を確認する。	○本時の学習をふり返り,自己評価をして自分のがんばりや学習の成果を実感し,成就感をもつことができるようにする。 ○場面読みしたことを基に,中心となる人物の気持ちの変化を全体でまとめることを確認する。

5　板書計画

ごんと兵十のかかわりをとらえて、感想を伝え合おう

ごんぎつね

学　最後の場面の、ごんと兵十のおたがいへの気持ちを読み取ろう。

ごん

明くる日も

・やっぱりつぐないたい

・兵十に気づいてほしい

兵十

ぬすみやがったあのごんぎつねめが

「ようし。」

・今日こそ殺してやる

・いいかげんにしろ

土間にくりが…目につきました。

・まさか、ごんが？

・今までのももしかしたら…？

「ごん、おまえだったのか。いつも、くりをくれたのは。」

・気づいてくれてうれしいよ

・なんてことをしてしまったんだ

・うなぎのつぐないができたかな

・取り返しがつかない

・うなぎをとってごめんね

・いろいろしてくれていたのに…

青いけむり

・ごんの命

・悲しみ

・せつない

・はかない

教科書 P.26 挿絵